

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術誌掲載論文) 南京国民政府下における高等教育問題の動態—一九三〇年代前半の教育部による国立大学評価を踏まえて— (上・下) 【査読論文】	単著	2013年3月 2014年3月	アジア教育史研究 第22号、第23号 アジア教育史学会	論文全体の概要: 本稿は、南京国民政府教育部が各高等教育機関を対象に行った視学工作成果『教育部改進黨科以上学校訓令彙編』(1935年:教育部が各機関に発した教育部側命令文書を収録)を踏まえ、当時における教育部の訓令工作を概括した上で、各機関が抱えていた問題点を設置者別に整理し、特徴化することを目標に、国立機関(総合大学及び単科大学)の分析を試みた。 (当該論文のページ数:各号とも23頁:本論部分)(当該書評の掲載ページ:各号とも巻頭論文で、いずれもpp.1~23)
2 (発表) 南京国民政府下「高等教育問題」の事例的検証—「国立北平大学」に対する教育部訓令の分析—	単独	2018年5月	アジア教育史学会 2018年度第1回 定例研究会 (上田女子短期大学 23番教室)	発表全体の概要: 本発表は、南京国民政府による高等教育政策の動議としての「高等教育問題」を明確化する一つの手懸かりとして、南京国民政府成立直後から一つの“総合大学モデル”として設立された「国立北平大学」(1928年創設:但し、その後、教育組織の改組が繰り返され、日中全面戦争(1937~45年)下、1937年秋事実上解体)に対する教育部(わが国の文科省に相当)の訓令(改善指導命令)を内容的分析を行うことで、当時の高等教育機関における問題の具体化を試みるとともに、南京国民政府下「高等教育問題」の一層の構造的特徴化を進めんとした。
3 (書評) グローバリズム時代の中国に贈る壮大な新「教育救国」論—小林善文著『中国の環境政策(南水北調)~水危機を克服できるのか~』—	単著	2018年3月	アジア教育史研究 策27号 アジア教育史学会	書評全体の概要: 本稿は近代中国教育史研究の泰斗たる小林善文氏の挑戦的な研究『中国の環境政策(南水北調)』に関する書評である。小林氏は「京大東洋史」出身で、これまで長年にわたり中華民国期「教育救国論」への再評価を展開されてこられた。ところが、21世紀を迎えんとする頃から思い立られ、中国の「水資源問題」の探求にも着手された。恐らく動機となったのは20世紀末期に深刻化した「黄河断流」であった。同著は中国における「水資源問題」の“源流”を具体的に辿り、問題の構造化を試みるとともに、中国における「水資源問題」は国際的にも影響をもたらしているがゆえに克服は必須だが、その鍵となるのは「環境教育」である。本稿は小林氏による既存論攷の分析を踏まえ、氏の「中国水資源問題考」の意義を考察しようとした。 (当該書評のページ数:13頁) (当該書評の掲載ページ:pp.51~63)
4 (報告) 2018年度 IDE セミナー報告 中国・四国支部 「高大接続 —英語入試の改革—」	単著	2019年4月	IDE 現代の高等教育 No.609 IDE 大学協会	報告全体の概要: 本稿は、2018年8月、IDE 中国・四国支部及び広島大学主催で開催された「第50回 IDE 大学セミナー」の報告である。2017年7月、文部科学省によって策定された「大学入試共通テスト実施方針」が公表され①2020年度に導入される新テストの名称が「大学入試共通テスト」となること。②国語・数学での記述式出題、英語四技能試験の実施が明らかとなるが、特に英語入試は各方面で物議を醸したことは周知の通りである。 (当該報告のページ数:6頁) (当該報告の掲載ページ:pp.75~80)